

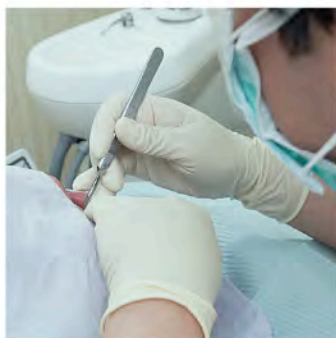
REPORT

歯科医院

歯科検査の重要性アピール

予防歯科の取組みポイント

- ① 今後の歯科医療は治療から予防へ
- ② 歯科医院による定期検診の重要性
- ③ 特殊歯科検査の取組みによる増患対策
- ④ 予防歯科に取り組んでいる先進事例



Available Information Report for Medical Institution Management

1 今後の歯科医療は治療から予防へ

歯科医療は年々変化しています。保険診療による虫歯治療から歯周疾患や歯根治療、自由診療による審美歯科やインプラント治療等まで、専門性も高まり治療の幅が広がってきています。また、歯科疾患になってから治療を行うのではなく、歯科医院で定期検診や予防指導を受けて、歯科疾患にかからないようにする「予防歯科」という考え方も浸透してきています。

歯科医院にとっても予防のために定期的に来院する患者を確保でき、その患者から家族や友人知人などの新たな患者層の発掘へも繋がります。

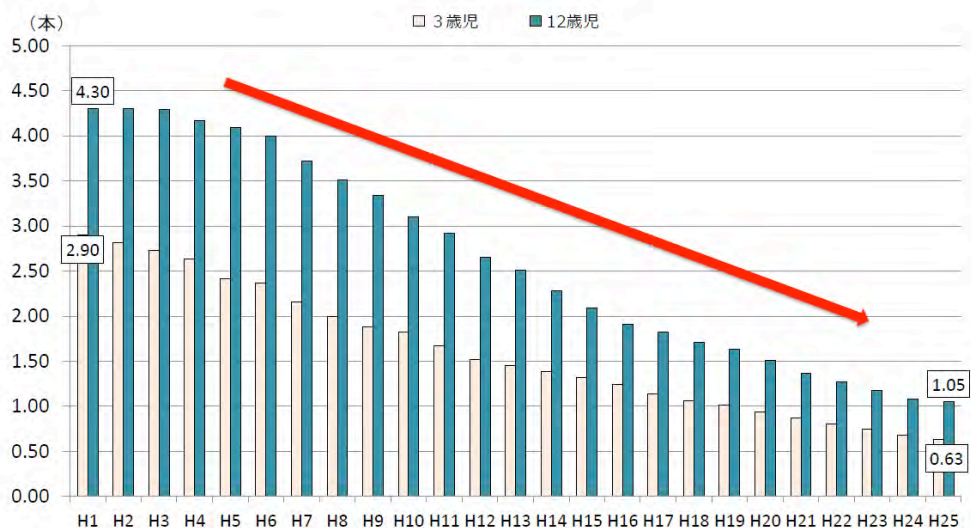
1 歯科医院にとって予防歯科取組みの必要性

(1) 歯科疾患数と現在歯数の関係

厚生労働省の調査では、むし歯や歯周病になっている患者は年々減少しています。

この調査から、将来において歯科疾患による患者数は年々減少していくと予想されます。

■むし歯の年次推移



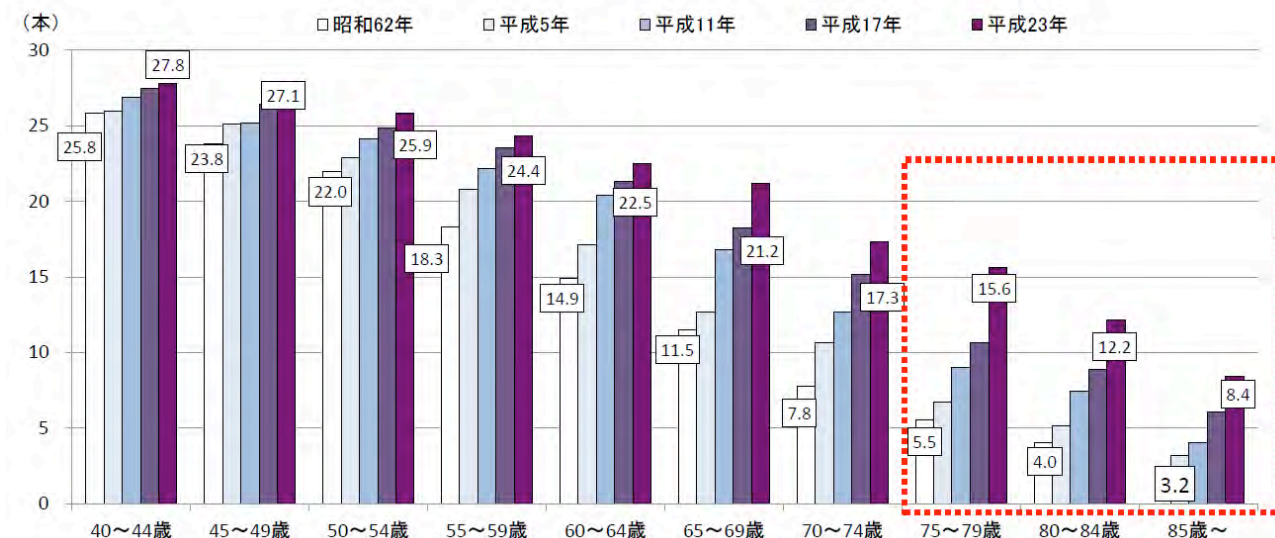
出典：3歳児：厚生労働省母子保健課・歯科保健課調べ、12歳児：文部科学省学校保健統計調査

■歯周病調査（4mm以上歯周ポケット有）

	平成9年	平成21年
40歳 人口比率	32.0%	18.3%
50歳 人口比率	46.9%	27.6%

出典：厚生労働省 歯科疾患実態調査

■ 1人平均現在歯数の推移 (H11~23年)



出典：歯科疾患実態調査（昭和32年より6年ごとに実施）

(2) 予防への移行

歯科疾患患者が減少していくなか、インプラントや審美歯科といった自由診療に取り組む歯科医院も増加していますが、予防歯科に取り組み、患者数を増加させている歯科医院も多くあります。

自由診療に関しては、特にインプラント等の専門性の高い治療に関しては、知識と臨床研修等による治療技術の向上が必要であり、そのための研修に要する時間と費用も掛かってしまいます。

予防歯科に関しては、定期検診を充実すること、また歯科衛生士と歯科医師の知識習得とセルフケアへの指導により、患者に十分な対応ができます。

(3) 予防への取り組み時の注意点

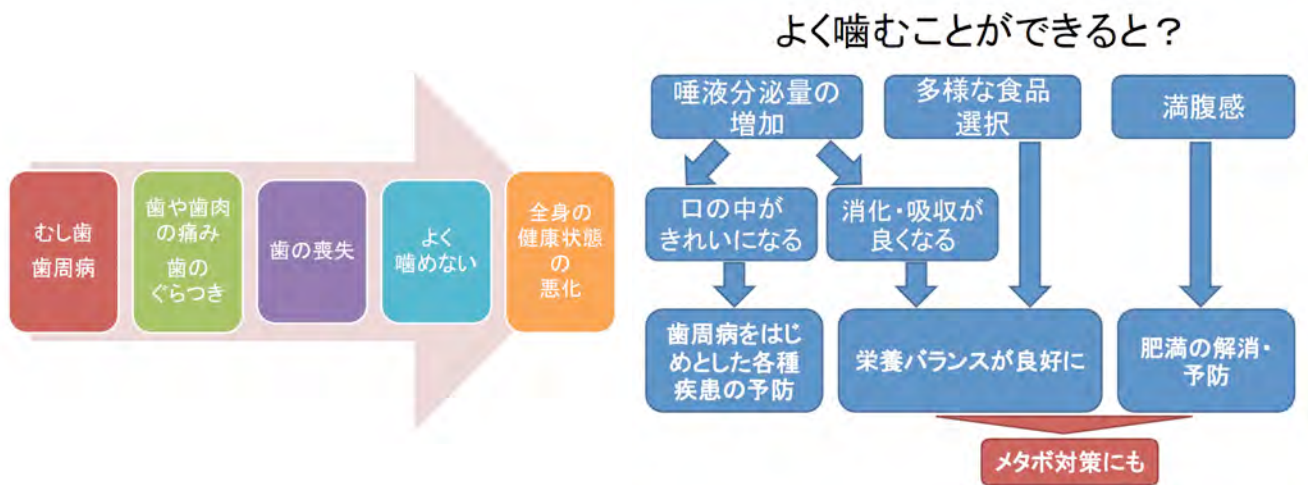
予防歯科に取り組む際には、予防という考え方を患者へどう説明するかがポイントとなります。インフルエンザや感染症等に対しては、予防の意識を持って病院や診療所へ来院されますが、口腔内に関しては、痛みや出血、歯の欠損等が起こってから来院が一般的です。いかに口腔内の健康維持の重要性について、患者に対し判りやすく説明し、理解してもらうということが必要です。

■ 予防による口腔内の健康維持と疾病抑制効果

- 歯の治療は、疾病前の状態に戻すことが少なく、削る、抜く、といった治療が多い
- 将来、歯が少なくなる・無くなることによる生活へ影響(食生活、会話等)
- 糖尿病や肺炎、甲状腺機能低下、白血病、不妊症、根管感染を原因とする関節リウマチ、多発性硬化症等に関係すると研究・発表されている

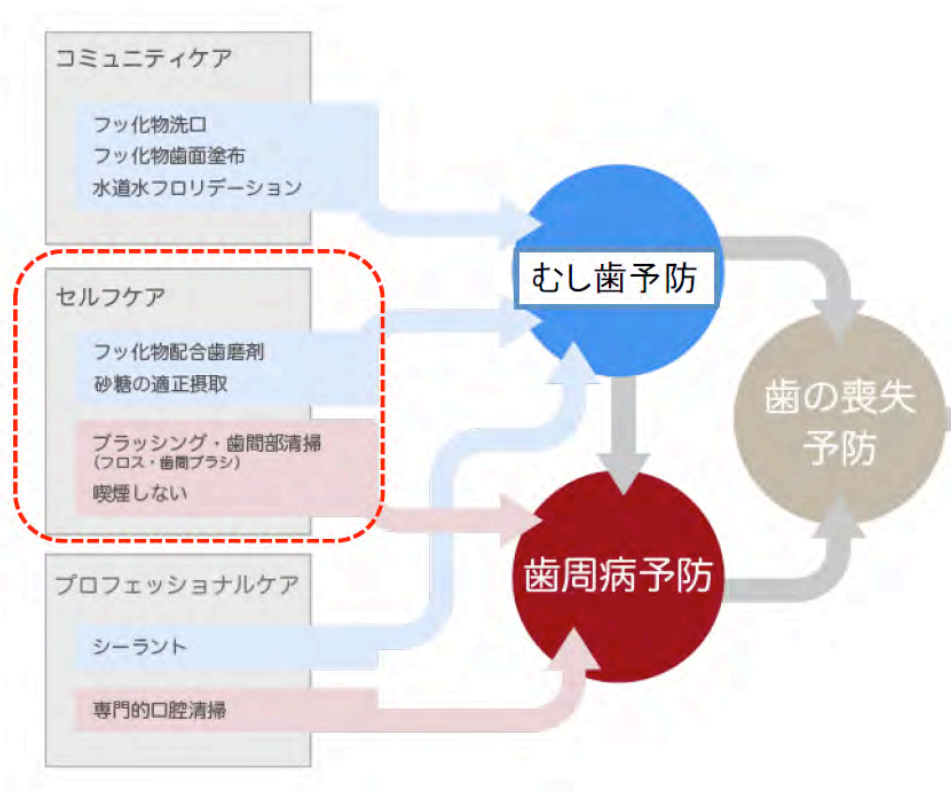
■歯や口と全身の健康との関係性

厚労省では、口腔内の健康維持が全身の健康状態にも影響があると考え、歯や口の健康推進に取り組んでいます。



出典：厚生労働省ホームページ 「保険者における歯や口の健康づくりセミナー」

■予防による虫歯・歯周病対策



出典：厚生労働省 e-ヘルスネットより一部改変

2 | 歯科医院による定期検診の重要性

予防歯科として定期検診を受けてもらうため、歯科医院では様々な取り組みをしています。また、企業や自治体では無料歯科検診が実施されています。無料歯科検診を受診したから、わざわざ歯科医院へ行く必要が無いという方もいますが、無料歯科検診ではむし歯ゼロと言われたのに、歯科医院での検診では数本むし歯があったという例があるようです。

歯科医院で行う歯科検査がより精密な結果が出るということを説明し、患者にしっかり理解してもらうことが、信頼を得て、かかりつけ歯科医院になる重要な取り組みです。

1 | 無料歯科検診と歯科医院での歯科検診の差

(1) 無料歯科検診

企業や自治体による無料歯科検診では、対象者が多数での実施となるため、1人に費やす時間は5分から10分前後、検査機器を使用せず、視診検査がほとんどです。事業所の定期検診、学校検診、妊婦歯科検診、3歳児検診等がこれらに該当し、歯科医院が行う定期検診とは精度が異なります。

■ 無料歯科検診のメリット・デメリット

◆ メリット

- ① 自治体や事業所が負担して、受診者負担なし
- ② 検査時間が短い
- ③ 視認できる虫歯、歯石、欠損等の判断
- ④ 口腔内や歯茎、舌等の視認できる範囲の確認

◆ デメリット

- ① 歯間等の視認できない部分は確認できない
- ② 歯周病の判断は難しい
- ③ 光源が低く口腔内の奥までの検査は難しい
- ④ プラークや歯石があると虫歯の確認が難しい
- ⑤ 歯科疾患の原因究明が難しい

(2) 歯科医院が行う定期検診・歯科検査

口腔内観察だけでなく、レントゲンや口腔内カメラ、唾液検査等の精密な検査により、視認できない虫歯や歯周病、歯茎の中の骨や歯根等の状況を検査できます。

この精度・専門性の高さが患者に十分に伝わるのが、歯科医院で定期検診・歯科検査を受診しようとする動機になります。

■ 歯科医院で行う定期検診・歯科検査のメリット・デメリット

<p>◆ メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 視覚検査では確認できない歯周病や虫歯が判断できる ② 診察や問取りにより、虫歯や歯周病の原因が判り、治療や予防方法の指導ができる ③ より精密な虫歯の状況把握により、削る必要のない虫歯かどうかの治療選択が可能 ④ 定期検診による時系列な状況把握が行え、状況に合った保健指導が可能 <p>◆ デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 診察代・検診代という費用が必要 ② 予防の重要性を認識していない方は、受診しない ③ 歯科医院へ来院するという手間と診察に要する時間がかかる ④ 痛くない歯科疾病が発見されると治療となる（メリットと取る方も）

検査時及び説明時は、以下の点に留意することが重要です。

■ 歯科医院での検査時及び説明時の留意点

<ul style="list-style-type: none"> ① 診療時間と費用に見合う精密検査を行う ② 検査方法（目的や検査手法等）の説明を十分に行う （いかに重要で専門性の高い検査であり、精密な結果が得られるかに重点を置く） ③ 検査メニューやパンフを作成し、患者にしっかり理解してもらう ④ 治療予約は患者別、治療別、検診及び説明等に合わせた時間設定をする ⑤ 院長もしくは歯科医師だけでなく、他のスタッフも理解して、患者からの質問に誰でも回答できるようにする ⑦ 保険診療と自由診療の説明を行い、検査後の会計時のトラブルを防止する ⑧ 検査結果を資料化して渡す
--

2 歯科検査から治療への流れを整理

定期検診や歯科検査からの結果から、より症状に合った治療計画が立案でき、治療を行うことができます。また、その後のメンテナンスもより細かく指導することができます。

そこで、検査から指導、治療、メンテナンスといった予防歯科の流れを策定する必要があります。

■ 歯科検査のメニュー

- チェックシートによる検査
- 歯周ポケット検査
- レントゲン検査
- 歯の動揺度検査

■ 歯科検査の流れ（例）

- 初診時：検査⇒歯磨き（ブラッシング）指導⇒歯面の歯石除去
（歯周病菌の除去とセルフケアの指導）
- 2回目：検査⇒歯ぐきの中の歯石除去
- 3回目以降：精密検査⇒歯周外科治療⇒メンテナンス（再生治療）

■ 軽度の歯周病治療の流れ

- 初診時：検査⇒歯磨き（ブラッシング） 指導⇒歯面の歯石除去
（歯周病菌の除去とセルフケアの指導）
- 再診時以降：検査⇒メンテナンス（歯並び／咬合調整）
（改善度合いのチェック＝2回程度の検査とメンテナンス）

■ 中程度の歯周病治療の流れ

- 初診時：検査⇒歯磨き（ブラッシング） 指導⇒歯面の歯石除去
（歯周病菌の除去とセルフケアの指導）
- 2回目：検査⇒歯ぐきの中の歯石除去
- 3回目以降：精密検査⇒メンテナンス（歯並び／咬合調整、歯周外科治療）

3 特殊歯科検査の取り組みによる増患対策

予防という言葉だけで定期検診受診に結びつけることは、難しいと感じる院長も多いはずです。

予防歯科・定期検診をアピールして来院につなげるには、患者に歯科検査をもっとよく知ってもらう必要があります。

さらに、歯科検査もシステムや最新医療機器による精密な検査を実施していることを周知することで、来院を促進することにつながります。

1 歯科用 CT 撮影による検査

インプラントの術前診断や口腔外科領域でも、歯科用 CT は活躍しています。通常の保険診療だけではなく、自由診療のインプラント手術でも、より精度の高い検査結果から詳細な治療計画が立てられ、十分な治療を提供できます。

予防歯科領域においても、質の高い検査結果は患者理解も早く、予防に関する口腔内の保健指導の効果も上がります。

■ 歯科用 CT の検査結果の活用法

- ① 歯周病診断における歯槽骨欠損部の病態の把握
- ② 再生療法の経過観察や効果測定
- ③ 根尖病巣の診断
- ④ 根管形態の診断
- ⑤ 歯牙及び歯根破折の診断
- ⑥ う蝕の診断
- ⑦ 顎関節、上顎洞などの病変の診断、等

また、口腔内、顎骨内の細かいエリアでのナビゲーションシステムも、PC により、CT 画像のデータを基にした、顎骨内のインプラントドリルやインプラント体の位置や方向の把握が容易になり、今後の治療計画の立案に多大な影響を与えることになると予想されています。

詳細な画像データを基に、より質の高い治療を行うことができ、原因究明から予防歯科への提言もデータが後押しします。

2 | 歯科ドックへの取り組み

(1) 歯科ドック

医療にある人間ドックと同様に、口腔内の定期検診をより精密に行い、疾病の早期発見、リスク確認にそなえるという歯科ドックの受診が増加しています。

歯科ドックには、以下のような効果があります。

■ 歯科ドックの効果

- ① 口腔の健康維持
- ② 早期発見から早期治療による医療費の削減
- ③ 診療時間や診療回数短縮
- ④ 身体・口腔内への影響の減少（削る、抜く等）
- ⑤ 全身疾患、生活習慣病への悪影響を防止
- ⑥ アンチエイジングに対する意識向上

(2) 歯科ドックの流れ

歯科ドックは予約による受診がほとんどであり、実施には1時間から3時間程度を要します。

自治体によっては、歯科ドック受診に対する助成制度が設けられています。歯科医院の検査設備状況により、検査内容は若干異なりますが、基本はほぼ同じです。

■ 歯科ドックの流れ

- ① 健康調査票、質問票等の記入
- ② パノラマ・デンタルレントゲン撮影検査
- ③ 全身所見による検査・・・体格、姿勢、歩行状態、皮膚、等のチェック
- ④ 口腔外検査・・・健康調査票等のチェック、血圧、脈拍のチェック
唾液検査、視診、触診、顎関節症関連検査
- ⑥ 口腔内検査・・・口腔粘膜検査、画像検査のチェック、う蝕検査、歯周病検査、
咬合検査、口腔内カメラ撮影検査、細菌検査、プラーク検査等
- ⑦ 歯科用CTによる画像検査
- ⑧ 歯石除去

出典：一般社団法人 日本歯科人間ドック学会ホームページ

3 | 予防歯科の認知活動

歯科検診の流れと説明を文章で作成し、パンフレットもしくは院内情報誌として準備し、患者への周知を行う必要があります。

■ 歯科検診パンフレットの内容項目

- 定期検診・予防歯科の重要性
- 歯科検診の流れ
- 基本メニュー
- 各検査の説明（目的、対象疾病、検査内容、検査結果の事例）
- 検査費用
- 各疾病に対する定期検診の日程説明 等

4 | 認知活動の取組ポイント

予防歯科に関する認知活動では、パンフレット同様に、予防歯科と歯科検査の重要性をアピールし、文章だけではなく、写真や画像による視覚に訴えることも求められます。

ホームページは、来院する選択肢にも活用されており、その歯科医院の経営理念や診療方針を知り、専門性や医療機器等を確認して受診することも少なくありません。

ホームページなどの広報ツールを用い、歯科検診の専門性や精度の高い結果等をアピールすることで、定期検診の来患に結びつけることもできます。

■ 場面別予防歯科・歯科検診の認知活動

- 受付時に予防歯科のパンフレットを渡す
- 待合室に予防歯科パンフレットや院内情報誌を置き、壁にはポスター等を配置する
- カウンセリング時に、予防歯科パンフレットから説明する
- 診察終了後、治療説明と併せて予防歯科への説明を行う、定期検診の予約を取る
- 一般検査時に各種検査の説明を行う
- 会計時に定期検診の予約確認を行う
- 定期検診2週間前位に予約確認を行う（ハガキ等による通知）
- 定期検診直前に電話で予約確認を行う

4 | 予防歯科に取り組んでいる先進事例

予防歯科と併せ、訪問歯科診療を行っている歯科医院では、当初の歯科治療を行った後、予防歯科へとシフトしています。予防歯科に関しては、患者より訪問先の介護施設等の管理者や在宅患者を抱えている家族が、定期検診を望むことが多いようです。

また、訪問歯科診療は医科との連携を行っていることから紹介も多く、歯科を開設していない病院からは、入院患者の訪問歯科診療の依頼が予防歯科につながっています。

本章では、予防歯科の取り組みから増患につながっている事例を紹介します。

1 | 訪問歯科と医科との連携からの予防歯科へ

中核都市で訪問歯科を行っているA歯科医院の事例を紹介します。医科診療所との連携から訪問先も増加し、それに伴い予防歯科の患者も増加しています。

■ A 歯科医院の概要

- 中核都市に開業する歯科医院
- 週1回の訪問歯科を行っていたが、医科との連携から訪問患者が増加
- 訪問患者の増加に伴い、現在は増員した訪問歯科チームで毎日訪問歯科診療を行う
- 地域の福祉事業所、病院、診療所と連携し、訪問先の確保、増加を行っている
- 訪問歯科チームに予防歯科の研修と説明訓練を行い、訪問先と歯科連携先へ予防歯科の重要性をアピール
- 歯科用CTはなく、CT装置を持っている病院・診療所と連携し、撮影を紹介

◆ 訪問歯科から予防歯科への移行

訪問歯科先の患者は介護補助が必要になっており、予防歯科としてのセルフケアがほとんどできません。介護施設のスタッフや在宅患者の家族は、患者のケア等で忙しく、予防歯科として指導している歯磨き方法も実践できていないのが実情です。こうした状況から、口腔内の健康維持は、歯科医院の予防歯科に頼ることになります。

しかし、患者や家族、介護施設管理者は、今の疾病に対して治療して欲しいとは考えていますが、この先の口腔内の状況が身体にどう影響するのかを予想できていません。

そこで、A 歯科医院ではセルフケアができない患者の口腔内がどうなっていくかを説明し、予防歯科への移行を勧めて、定期検診と歯科医師、歯科衛生士による予防を行っています。

■ 予防歯科への取組み

- 予防歯科のパンフレットを用意し、介護者に説明をして、予防歯科へ切り替える
- セルフケアを指導し、定期的に歯科医師や歯科衛生士による予防の必要性も指導する
- 連携先医療機関に対し、定期検診を行う際、歯科の定期検診も合わせるよう依頼
- 連携先病院に対し、介護・療養病棟だけでなく、一般病棟の入院患者の口腔内の定期検診の重要性を説明し、予防歯科へとつなげる
- 連携先病院の退院患者に対する予防歯科・定期検診を勧める
- 訪問患者だけでなく、家族に対する予防歯科の重要性をアピールし、定期検診を勧める

2 | 歯科ドックを行う歯科診療所

大都市で歯科ドックを展開している B 歯科医院では、定期検診というより歯科ドックという言葉を用い、専門性を高め、疾病発見を主にアピールしています。

■ B 歯科医院の概要

- 大都市で開業する歯科医院
- 定期検診ではなく、歯科ドックという精密な歯科検査を勧める
- 1日2時間程度の検査で終わることをアピールし、時間的負担を軽減
- 自由診療となることをしっかり通知
- 費用 20,000 円（税別）、検査メニューと検査内容、および効果を詳細に説明
（パンフレットの無料配布を行う）
- 月2回の検査日を設定し、予約による歯科ドックを実施
- ホームページと来院患者、町内会、近隣企業へ認知活動を行う

◆ 「歯科ドック」という専門性による予防歯科への取組み

定期検診を勧めても患者の来院につながらず、対応策を模索していました。院長が人間ドックを受診した際、歯科に応用できることに気付き、他歯科医院を調査して実行しています。

また、一般社団法人 日本歯科人間ドック学会を知り、加入と登録をしています。

B 歯科医院では、下記の方法で歯科ドックをアピールしています。写真入りのパンフレットや、検査メニューをわかりやすく説明する資料を準備して、患者に理解いただいたうえで、歯科ドックを実施しています。

■ 歯科ドックのアピール方法

● 歯科ドックのパンフレットを用意

- ・ 検査機器の写真入りの紹介
- ・ 検査方法各種の対象疾病とその疾病による悪影響の明示
- ・ 疾病による状況写真の掲示
- ・ 検査方法の写真付説明
- ・ 口腔内の健康と全身の健康との関係を表示
- ・ セルフケアとプロフェッショナルケアの指導説明
- ※ 視覚に訴えるよう、写真を多用し、説明文は簡潔明瞭にしている。

口腔内の健康が将来の生活にどれだけ影響するかという長いスパンでの効果を説明

● 歯科ドックの検査メニューを明示

- ・ むし歯（う蝕の有無と進行程度、かかりやすさ）
- ・ 唾液検査（唾液量、pH、細菌の種類と数）
- ・ 潜血反応（歯周病や粘膜からの出血の有無の判定）
- ・ 口臭測定機による検査（う蝕や歯周病、清掃状態にも関係）
- ・ 舌、口腔粘膜（視診、触診）
- ・ 咬合状態、咬合力、左右のバランス等、CP による分析、検査
- ・ 開口量の測定
- ・ レントゲン検査（デンタル、パノラマ）
- ・ 口腔内カメラによる撮影検査
- ・ 口腔内の汚れ（汚れの評価、清掃用具の選択、セルフケア指導）

● 全身の健康と口腔内の健康は重要なつながりがあることをアピール

● 連携病院に対し、人間ドックの患者へ歯科ドックの紹介依頼

● 外来患者が人間ドック受診の際は、費用負担を軽減

● 費用の明示

● 検査時間の明示

● ホームページによる明示

■参考文献

厚生労働省 HP 「保険者における歯や口の健康づくりセミナー」資料より
歯科 CT ナビ 歯科用 CT にできること <http://ct-navi.com/index.html#>
一般社団法人 日本歯科人間ドック学会 <http://www.jddock.net/index.html>
東京国際クリニック 歯科ドック <http://www.period.tokyo/dentaldock/>
エンパワーヘルスケア株式会社 <http://haisha-yoyaku-blog.jp/company>